

「就職先アンケート」報告

2024.8
就職進学支援部

就職先による卒業生の評価および学修成果等に関する調査

実施期間：2024年7月1日（月）～8月20日（火）

調査対象：2024年3月卒業生の全就職先 [171件（252人分）]

＜内訳＞社会福祉学科	：56件（61人分）
子ども教育保育学科	：41件（45人分）
理学療法学科	：42件（56人分）
作業療法学科	：24件（26人分）
看護学科	：31件（64人分）

調査方法：郵送

調査項目：以下のとおり

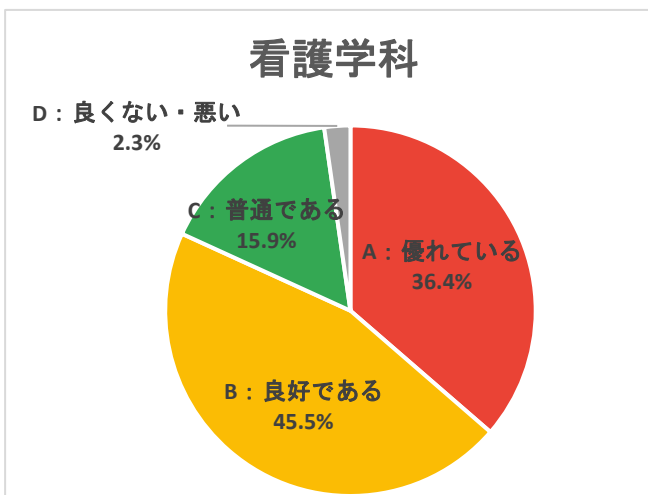
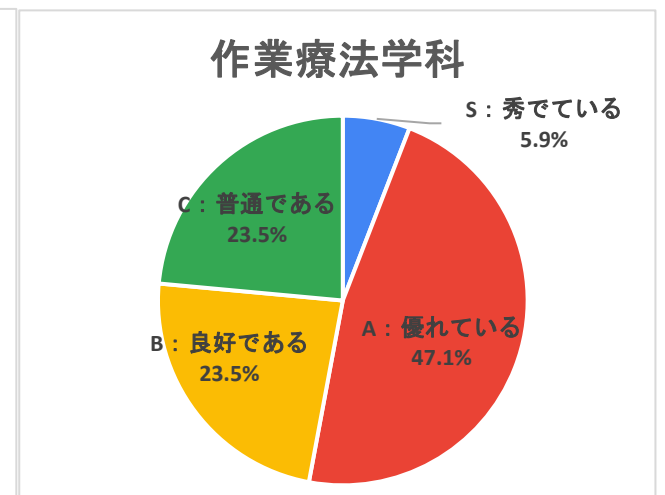
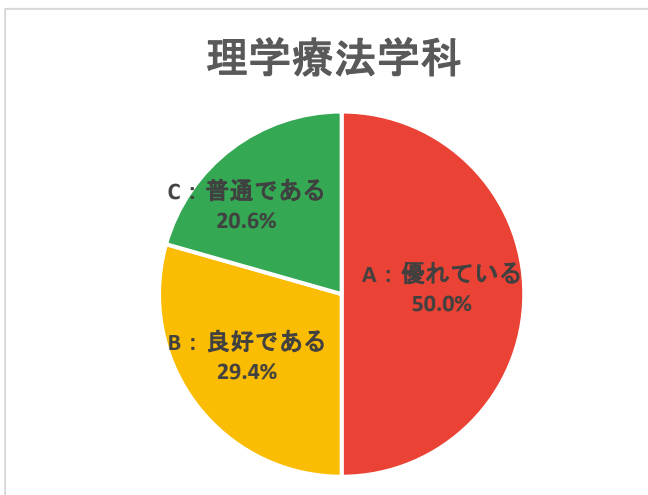
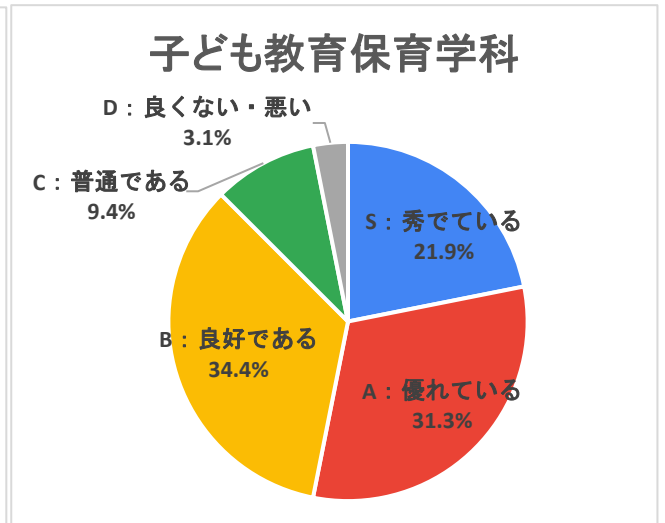
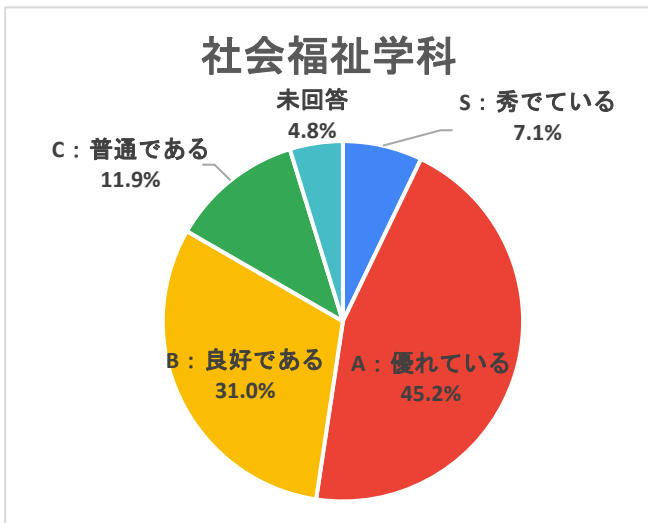
1. 事業所名
2. 記入者名（部署・役職・氏名）
3. 評価対象者名（卒業生氏名・学科名）
- 4-1. 評価対象者の評価
 - ①総合評価（5段階評価／S・A・B・C・D）
 - ②特に評価できる点（能力、勤務態度、意欲など）
 - ③気になる点、不十分な点など
- 4-2. 学修成果等に関すること
 - ①採用の観点から、大卒者に期待する「資質」について
 - ②採用の観点から、大卒者に期待する「能力」について
 - ③採用の観点から、大卒者に期待する「知識」について
 - ④採用時の判断基準として有効活用が可能な「学修成果の情報」について
5. 本学へのご意見・ご要望

回答方法：Google フォーム、FAX、メール

回答率：66.7% [114件（169人分）／171件（252人分）]

＜内訳＞社会福祉学科	：66.1% [37件（42人分）／56件（61人分）]
子ども教育保育学科	：70.7% [29件（32人分）／41件（45人分）]
理学療法学科	：71.4% [30件（34人分）／42件（56人分）]
作業療法学科	：62.5% [15件（17人分）／24件（26人分）]
看護学科	：58.1% [18件（44人分）／31件（64人分）]

「4-1. ①評価対象者の総合評価」の集計結果



「4-1. 評価対象者の評価」の主な回答

②特に評価できる点（能力、勤務態度、意欲など）

<社会福祉学科>

- ・チームワークを意識した行動や、他の職員と協調体制をとることができている。
- ・指導されたことは、改善しようとする姿勢がうかがえる。
- ・無遅刻、無欠席。笑顔。人見知りの児童がすぐに慣れることができたので、子どもの目線に立って、優しい関わりができています。現在、中学生への学習支援についても丁寧に関わっています。また、保育士資格取得のため勉強もしています。向上心があるところが評価できます。
- ・笑顔でモチベーションも高く、一生懸命、仕事に取り組んでいる卒業生が多いです。電子カルテの使用に苦労しているようですが、始めだけですぐに慣れ、使いこなしています。
- ・指導を受ける態度がとても良い。事前に業務マニュアルや支援手順書などは本人に渡してあるが、新しい支援や業務に携わる際には必ずメモを取っている。そのメモは自宅に帰ってから内容を復習しながら清書しているとのこと。その甲斐あってか、だいたいのことはすぐに頭に入っており、独り立ちがかなり早かった。
- ・状況を判断し先回りして行動することができる
- ・任された仕事に意欲的に取り組む様子や会議の場面で自分の考えを話す様子が見られます。困ったことがあれば相談すること、質問すること、提案することも積極的に行えています。
- ・利用者やスタッフとのコミュニケーションも良好で利用者の隣に座ってゆっくり話を聴いている様子も見られます。
- ・困難な利用者様でも文句を言わず対応するところ
- ・介護保険で行えない事を利用者様に伝える事ができるところ

<子ども教育保育学科>

- ・指示した内容に関して、周りに相談を仰ぎながら正確に遂行することができ、新しい業務に関しても熱心にメモをとって吸収しようとする姿勢が見受けられる。
- ・総合評価については仮の評価である。評価できるほど勤務時間が十分ではないため、今後に期待する。時間通りに勤務ができ、伝えた仕事はほぼこなせている。質問もでき、意欲的な態度を感じる。
- ・ネガティブな言動を人前であまり見せない。
- ・苦手なことにも挑戦して努力ができる。
- ・子ども1人ひとりと向き合おうとしている
- ・先輩からの助言に対して嫌な顔をせず、聞き入れてくれる
- ・気になった事・困った事があった時はすぐに聞いてくれる
- ・分からないことはその場で質問をしその日のうちに聞いて解決しようとする。提出書類は期限よりも早めに提出する。
- ・誠実に仕事に向き合っておられます。入所されている高齢者に対する言葉遣いや対応はとても丁寧です。専攻されていた学科とは違う分野の仕事に就かれましたが、知識やスキルを一生懸命に身につけようと努力されています。

<理学療法学科>

- ・スケジュールやタスク管理も行えており時間内に業務をある程度終えることはできている
- ・報告連絡もある程度は行えており、他のスタッフとのコミュニケーションも図れている
- ・患者様との関わりは、物腰が柔らかく好感がもてます。
- ・優しく接し、患者の気持ちに寄り添うことができる。

- ・勤務態度は非常に誠実であり、患者や先輩への気遣いも自然にできています。周囲の模範となるような人材です。患者を良くしたいという情熱が強いことに大変好感を持ちます。患者治療で困ったことがあれば、翌日には勉強してきており、わからないことについては先輩に質問をするなど、入職当初から問題を解決する能力を高く兼ね備えていました。技術面においても相応の能力があり、即戦力として業務できています。
- ・知識を吸収しようとする姿勢
- ・リハ提供中、患者に良くなってもらいたいという意欲を感じる

<作業療法学科>

- ・専門知識も豊富で学校で学んだことプラスアルファで勉強されていることがよくわかります。入社後まもなく県士会へ自ら入会しさらなるスキルアップを目指している意欲も伝わります。性格も明るく周囲に気遣いが出来、勤務態度も真面目で自宅が遠方ですが遅刻することなく勤務しています。利用者からの人気も高く施設に馴染んでくれ他の職員ともコミュニケーションが取れて良好な関係が築けているように思います。様々なアイデアを持って積極的に提案してくれる面も高く評価しています。今後をとっても期待しています。
- ・接遇面や吸収力が優れている
- ・仕事内容も覚え、業務の量（患者を受け持つ人数）も他のスタッフ同程度できている
- ・わからない事や未経験な事は自ら質問できている
- ・自己学習の目標を立てて実施できている

<看護学科>

- ・スタッフと気さくにコミュニケーションを取り、場の雰囲気馴染めている。
- ・看護技術の向上が良い。
- ・慎重に実践を行い、勝手な判断はしていない。
- ・鎮静されている患者が多い中、誰に対しても丁寧に声かけや説明を行うことを、意識して行動できている。明るい表情と、活気のある受け答えが周囲のスタッフへも良い影響を与えている。
- ・病棟勤務になった当初は表情が固く、不安な思いが表情に現れていましたが、3カ月経過し徐々に病棟にも慣れ、スタッフにも慣れ、笑顔も見られるようになりました。日々の看護実践を通してアセスメント能力、看護技術を向上できていると感じています。
- ・技術チェックリストのA評価が多く、自主性をもって確実に実施していると評価できる
- ・患者を中心に物事を考えることができている。分からないことを「分からない」と先輩に伝え、そのままにせず理解しようとする努力がみえます。
- ・感情が安定しており与えられた業務を正確にこなしている

③気になる点、不十分な点など

<社会福祉学科>

- ・たまに受動的な部分がある。
- ・利用者様への声掛けなど、慣れてくると業務が雑になる点が見受けられる。
- ・他者とのコミュニケーション能力
- ・社会人基礎力はそれぞれですが、言葉の使い方が悪い方もいます。就職当初は勤務に慣れようと無理をしてしまい、体調管理ができないこともありました。
- ・SNS ツールを用いての情報共有の理解に関して不十分な点が見受けられる。
- ・マニュアルにあること・指導されたことは、ほぼ抜けやミスもなくできているが、マニュアルにないことに対しては少し行動が鈍い。福祉の仕事はマニュアル以外の部分にいかにか付き行

動するかが求められる。ゆっくりで良いので、その部分を養って行って欲しい。

- ・身体介助などの介助技術の習得には時間がかかった印象です。本人からは介助の研修や実習が少なかったと聞いています。
- ・入所直後、先輩職員や利用者様に話し口調で話していたことから利用者様からも指摘があり、敬語などの言葉遣いについては何度か指導を行っています。
- ・事業所のみではなく自宅での生活を考え、何が必要かを考える力を今後身につけてほしいと思います。
- ・専門の資格取得に取り組んでもらっていますが、勉強（座学）は集中力が続かない、取り組むまでに時間がかかるという（これは本人が自己分析にも挙げていました）点が今後の成長の枷にならないか不安です。
- ・利用者様に対し上からの物言いをする
- ・勤務態度に問題あり（事務所内での動き方がだらしなく、スリッパを音を鳴らしながらダラダラと歩く。統括に対し伸びをしながり返答する。先輩方にタメ口で話す、工作中ゲームをしている）

<子ども教育保育学科>

- ・学生気分が抜けきらず、社会人としての自覚が甘い。人を評価してしまい、先輩からのアドバイスを素直に聞けない。
- ・報連相や返答の遅さを時折認めます。
- ・4月から7月24日時点で2か月弱しか勤務できておらず、体調管理をお願いしたい。
- ・自分の意見をもう少し言えたらいいなと思います。（こちらとも言えるような雰囲気づくりに努めていきます）
- ・声かけの仕方が抑制気味になっている
- ・子どもと一緒に遊ぶ事が少なく、見ている事が多く見られている。仕事していて楽しいことはあるのかなど、マスクをしているせいもあり表情がなく会話もスムーズには…。わからない事を確認することも少なく、オドオドしている様に見えます。制作、ピアノ、行事の企画、どれも好きではないらしく、あまり保育科で学んだことなど活かされてなく残念です。

<理学療法学科>

- ・技術や知識に対する向上は少し低いように感じられる
- ・学会や研修会参加も乏しく、もう少し学習する習慣が身につくとよい
- ・リスク管理が不十分でリハ中の転倒を起こしています
- ・自主性・表現力がやや不足している。
- ・失敗を過剰に恐れている面があり、常に完璧を目指しすぎる事から、上手くできない事があると落ち込んでしまう事があります。また、自身に予想外の事態が起こると態度に出してしまう事や、言葉使いが崩れる事があります。指導者が助言を行うも言い訳が先に出る事があります。他者との距離感が近くなり過ぎる場合がありますので、引き続き指導させて頂きたいと思えます。
- ・患者治療においては、患者自身の発言をやや軽視しているように感じることがあります。コミュニケーションスキルとしての課題かと考えていますが、リハビリを拒否する患者や疼痛を訴える患者に対して、相手の話を十分に聞かないまま予定していた治療を遂行しようとしてしまうことがあり、何度か指導をしています。患者を良くしたいという熱意が裏目に出ているようにも感じます。
- ・カルテ記載やリハビリサマリー作成時などで入力漏れが散見され、確認作業が十分できておら

ず何度か指導を要す場面があります。臨床面では、歩行監視中に腕を後ろに組んだり、他の訓練備品を運びながら歩行監視を行うなど、慣れにしたがってリスク管理が甘くなる傾向があります。

<作業療法学科>

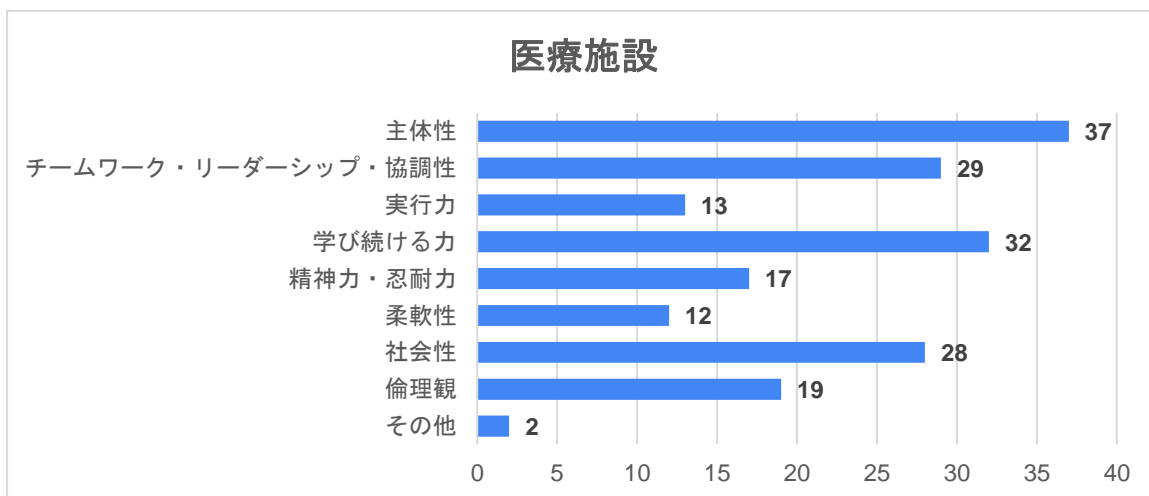
- ・応用が利きにくい面がある。(血圧は把握しておくが、脈拍等は気にしていなかった)。少し視野の狭い面があるも、指摘により改善は見られている。
- ・報告が少なく、こちらからの確認が必要
- ・言葉遣い(敬語が正しく使えない面がある)。
- ・報告・連絡・相談の不足。
- ・受け身、主体性不十分
- ・リハビリ内容を考えていると寝れない日がある。
- ・記録に時間がかかる(パソコンの前に座ってから考え始めるようです。貴校だけでなく、全体的に要領が悪くなっていると感じています)

<看護学科>

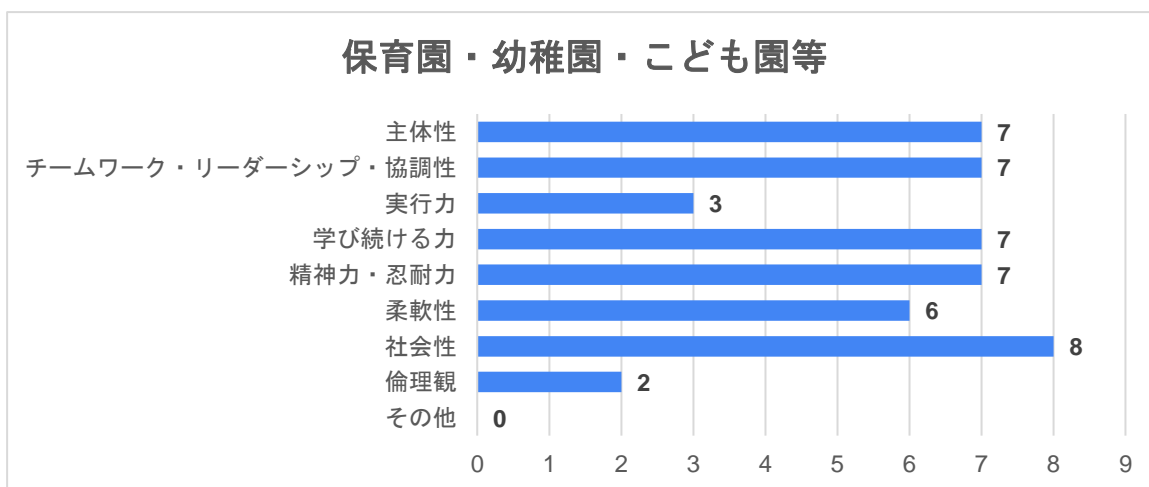
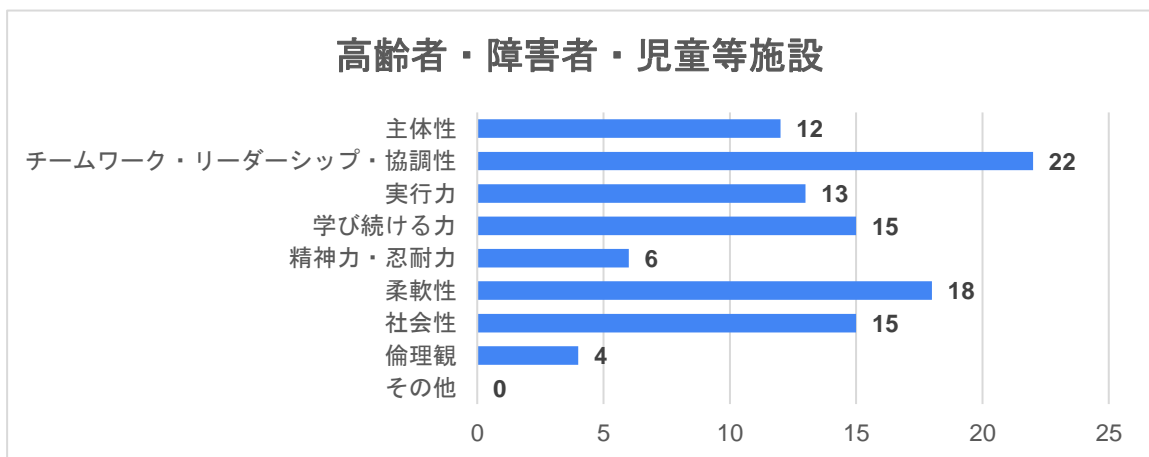
- ・真面目に取り組んでいるが、気分が落ち込みやすい面がある。
- ・対話ができない患者が多い中で、モチベーションの維持に苦慮している様子がある。患者の反応や経過などから、やりがいに繋がることを支援してフォローしている。疑問点の言語化が少ない。表現、発言を支援していく。
- ・何事にも前向きな言葉が聞かれるのですが、行動が伴わないことがあります。具体的に言うとう主体的な学習面が乏しいことや提出期限が守られないなどです。また、先輩への言葉使いにも気になる所もあり、今後患者との関りの中でトラブルが起きないか注意していきます。
- ・患者とのコミュニケーションの中で少し気になるところがある(言葉遣い)
- ・担当患者以外のナースコールをもう少し積極的に取れるとよい
- ・一見、落ち着いているように見えるが、実は動揺していたり落ち込みやすい一面がある。それを周りに表出しないようにしている。”質問”はできているが、”報告”、”表出”は苦手なよう。
- ・集合研修において、受講態度がだらしない者がいる。

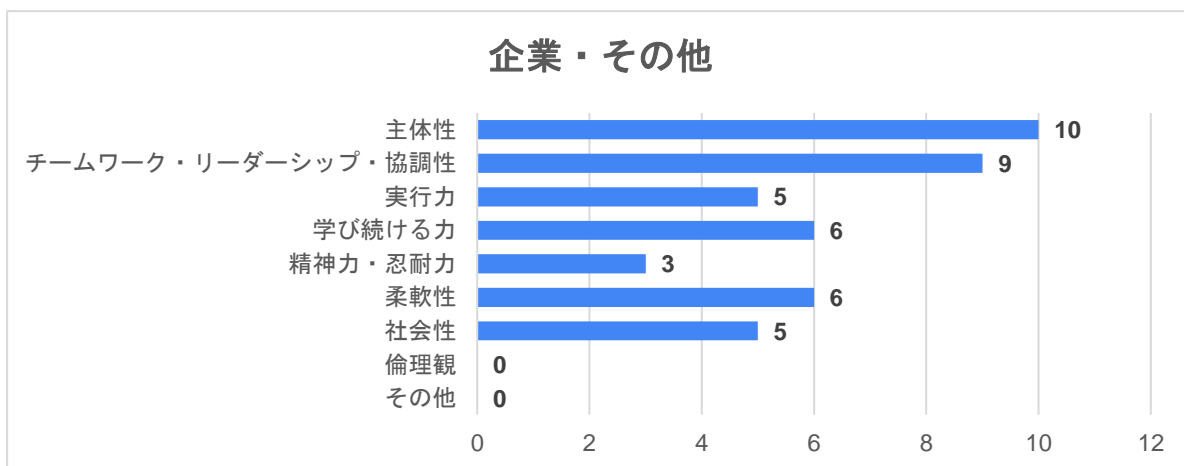
「4-2. 学修成果等に関すること」

①採用の観点から、大卒者に期待する「資質」について（最大3つまで選択）

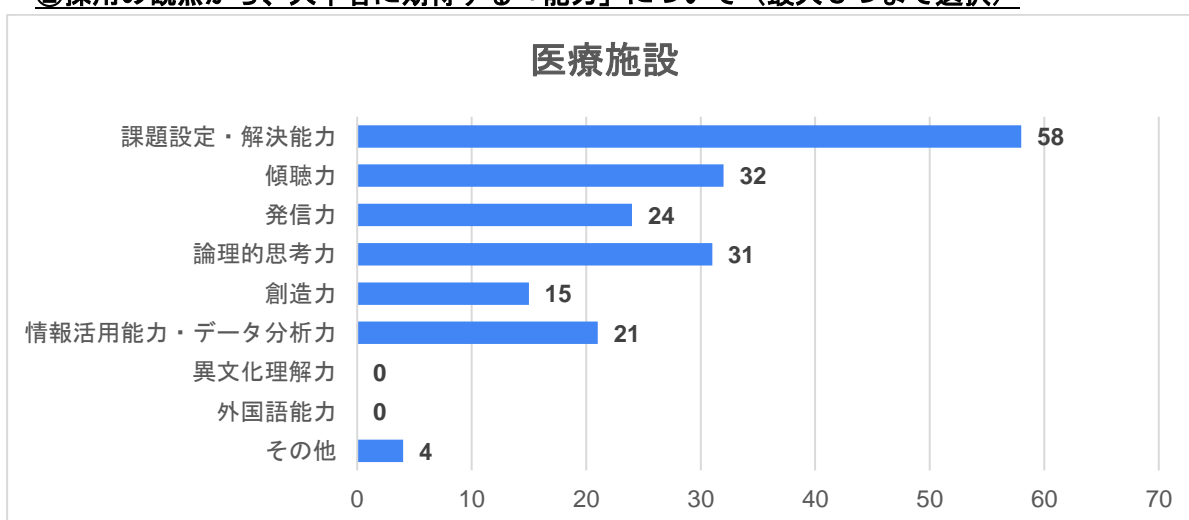


●その他の内容…「看護実践への意欲」、「誠実さ」

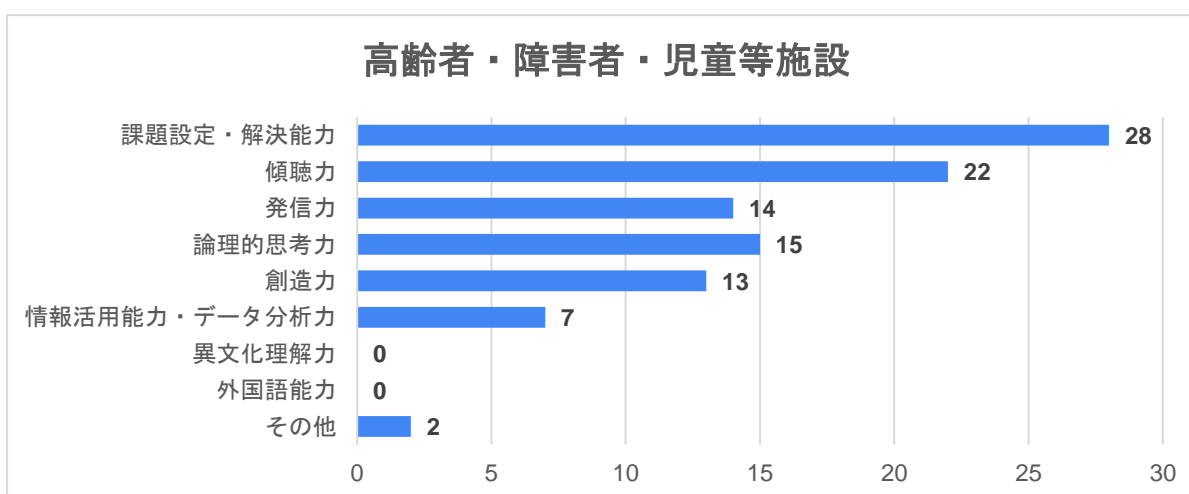




②採用の観点から、大卒者に期待する「能力」について（最大3つまで選択）

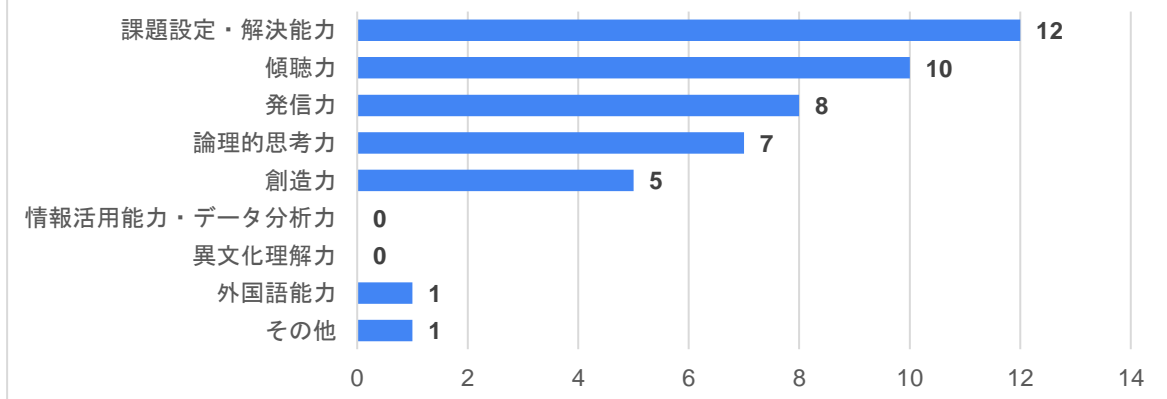


- その他の内容…「主体性」、「思考耐久性」、「共感力」、
「実習を通じ得たことを自分で振り返り相手に表現できるか」



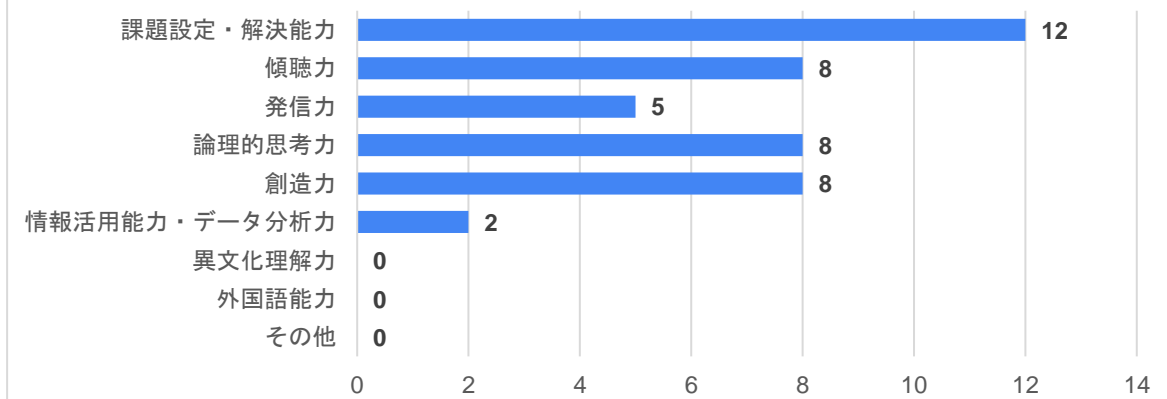
- その他の内容…「行動力・実行力」、「素直であること」

保育園・幼稚園・こども園等



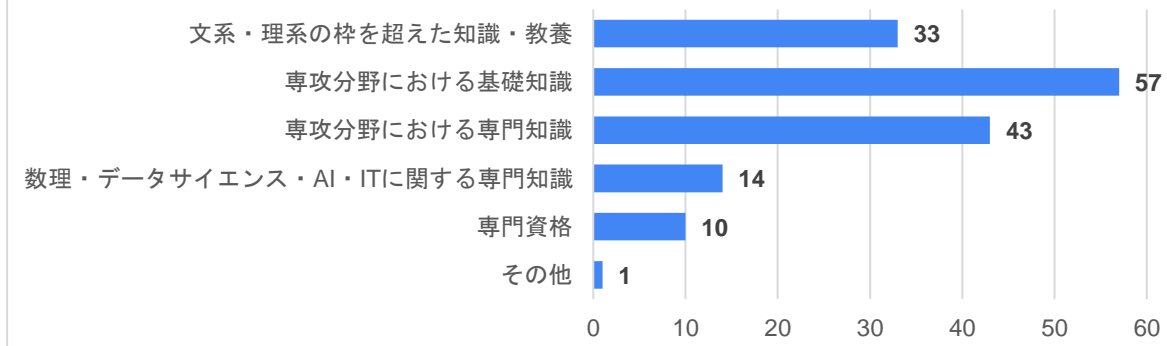
●その他の内容…「コミュニケーション能力」

企業・その他



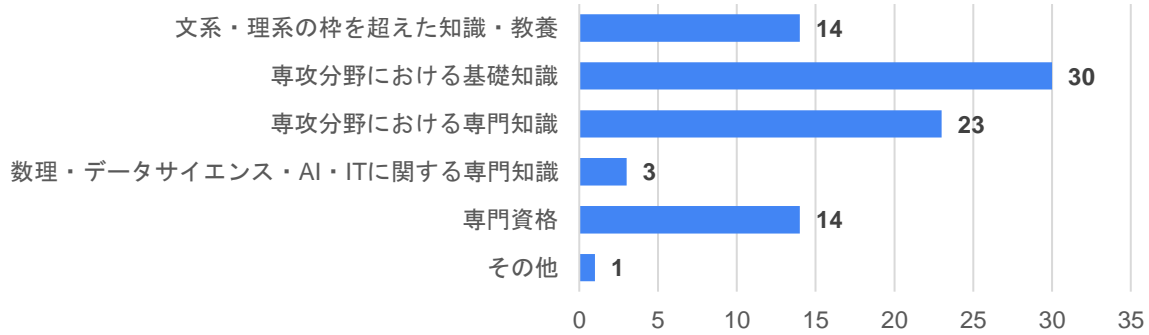
③採用の観点から、大卒者に期待する「知識」について（最大3つまで選択）

医療施設



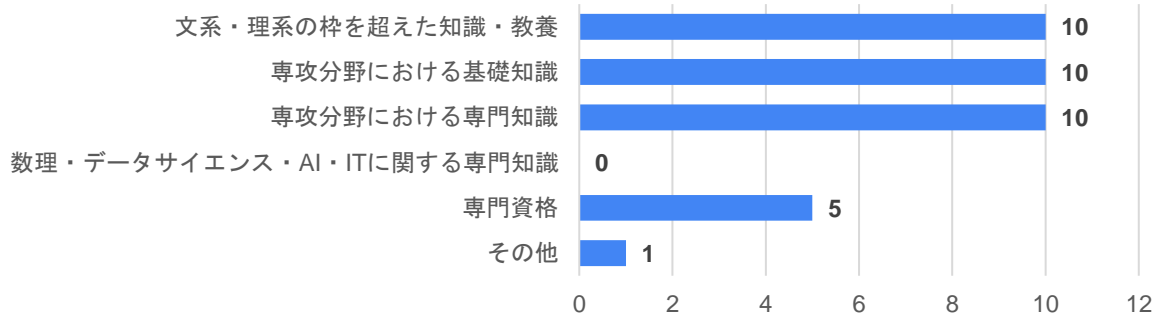
●その他の内容…「医療統計の知識」

高齢者・障害者・児童等施設



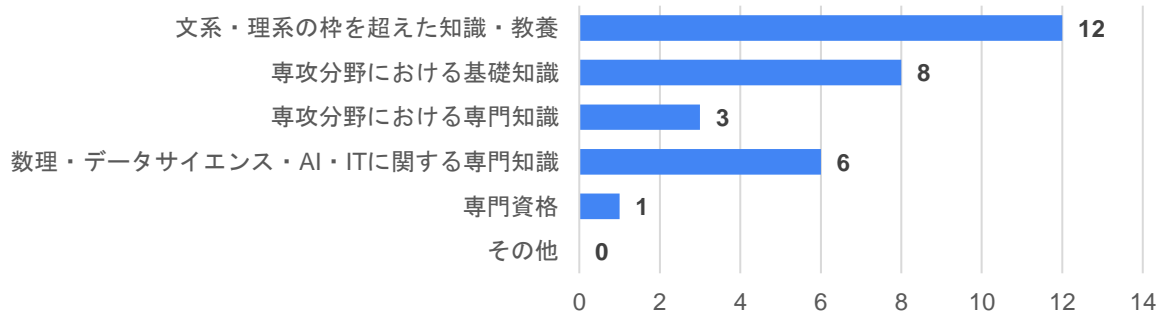
●その他の内容…「社会性の知識」

保育園・幼稚園・こども園等



●その他の内容…「一般常識」

企業・その他



④採用時の判断基準として有効活用が可能な「学修成果の情報」について（自由記述）

※「学習成果の情報」…一般的な成績証明書には記載されない資格、研究、語学、情報など、選考時の提出書類等に記載を求めるもの。

*****以下、括弧内の数字は回答件数*****

<医療施設>

- ・研究分野 (8)
- ・取得資格 (7)
- ・語学 (4)
- ・外国語能力 (会話)
- ・ITに関する資格 (2)
- ・精神科看護学演習、看護研究の内容
- ・実習時の総評
- ・卒業論文のテーマ (4)
- ・受賞、表彰歴
- ・課外活動・ボランティアなど、自主的に参加していた社会との関りなど (4)
- ・クラブ活動
- ・興味関心分野、将来像
- ・健康状態
- ・特技
- ・基礎知識の重要性及び応用能力は大切だと思いますが、人間力が推し測れる指標があれば良いと思います。
- ・社会人としての知識や教養、適応力などが分かるレポートなどがあると判断基準として役立つと考えます。(心が健康であるかという判断は難しいと思いますが学生時代に必ず何かのエピソードがあると思います)
- ・協調性や実行力・推進力などの判断材料となるため学内での特記する活動があれば知りたい
- ・専門職種であれば学生時代に取り組んだ研究や専門知識があれば自己PRとして評価したい。
- ・長所ばかりではなく、短所も詳細に教えて頂き、それをカバーしながら成長していくことを共に考えていければより良いと考えます。
- ・少しずれるが出席率など
- ・コミュニケーション力としてアルバイト経験の有無

<高齢者・障害者・児童等施設>

- ・実習での評価、成果 (2)
- ・卒業論文のテーマ (3)
- ・研究分野 (4)
- ・部活動やサークル活動での役割等
- ・取得資格 (3)
- ・医療、介護、福祉系の資格（住環境コーディネーター）等
- ・保育士、社会福祉士、教員資格
- ・大学内での活動
- ・社会活動、ボランティア等の参加実績等
- ・大学学修活動以外での活動や経験や考え方
- ・コミュニケーション能力 (2)
- ・学生のアピールポイント等

- ・友人関係や日々の生活の中から「人との繋がり」に対する感じ方や価値観
- ・学生時代を通して、専門分野を学習したかどうか。その分野での活躍意欲があるかどうか。
- ・近年ストレスを軽減できる方法をもっていることも重要であるため自分を知り、余暇をうまく過ごせることができる力も必要だと感じます。
- ・弊事業所には様々な資格をもつスタッフが所属しており（中には福祉にまったく関係のない資格を保有しているものも在籍。）それらが新たな支援の開拓、他事業所との差別化、利用者満足度につながっていると感じるため、自身が興味があると思ったことに関して（運動や音楽、語学等多岐にわたる分野）他者にある程度教えられるレベルになっていると望ましい。

<保育園・幼稚園・こども園等>

- ・取得資格（2）
- ・IT 関係の特技
- ・実習後の実習報告書などその方の保育に対する考え方や取り組み方が伝わるものがあれば両者にとり採用後の働き方や保育観の相違もなく良いかと思えます。
- ・運転免許
- ・特にはないですが、今年園見学に来られる学生さんには、「最近ハマっていること」を聞いてみようと思えます。自分の言葉で語る、伝える力があるかどうかの判断に参考にするためです。

<企業・その他>

- ・PC 関連の資格
- ・PC の操作技術、エクセル関数の把握
- ・成績証明書に記載されない資格や情報
- ・コミュニケーション、コーチングなどのスキル
- ・学生時代に取得した資格があれば、専攻分野に関わらずお伺いしています。
- ・部活動の戦績、資格(審判資格等)
- ・学内外のプロジェクト活動やボランティア活動等での実績があれば参考とさせていただきます。

「5. 本学へのご意見・ご要望」の主な回答

<社会福祉学科>

- ・主体性のある学生や、貪欲に知識を習得しようとする学生の育成に、今後もご尽力いただければ幸いです。
- ・介護に興味がある方はぜひご紹介ください。
- ・学生さんをぜひ紹介していただきたい。来春就職希望、インターンシップどちらでも結構です。
- ・障害者福祉は、より多くの人に「知ってもらうこと」から始めなければなりません。同じ福祉業界の中でも障害を持った方々や、その支援に携わる仕事を知らないままで生きていく人も多いと思えます。せめて、福祉に興味・関心がある学生さんには、ぜひ、この世界をのぞくチャンスを作ってあげて欲しいと思えます。きっと見て、知って、体験すればその楽しさや面白さを実感してもらえると。ぜひ、そのような機会をより多く作っていただけたら嬉しいです。
- ・学生の実習・ボランティア等の受け入れをしていますので、連絡をお待ちしております。
- ・子どもを育てる業界は常に人材不足です。今まで通り子どもと関わる仕事の魅力を伝えていただければと思います。
- ・卒業生の就職についてお互い情報共有していきたい
- ・私見ですが、大学で学んだ専攻分野を活かして就職活動されるのが、企業としてはわかりやす

い（受け入れられやすい）と思います。しかし、多岐にわたる教養学科、専門性の高い研究経験は「汎用性・柔軟性・課題設定・解決力」というものも磨けると思っています。

- ・学生の考え方など、率直なご意見をお聞かせいただく機会があればと考えております。

<子ども教育保育学科>

- ・大学進学と共に就職への選択肢が広がる中で、資格を取っていくのであれば、保育園幼稚園関係への就職率が上がることや、子育て支援が多く語られる中で、より多くの学生が目指したいと思う育成や支援があればと願います
- ・最近では、書類はパソコンで制作をするのでワードはある程度使えるようにしてほしいです
- ・連絡帳・指導計画の書き方、文章能力や語彙力をもう少しあったら良い。
- ・社会人としてのマナーは学生のうちから教えてほしいと思います。
- ・実際に現場を見て経験できることが学生にとっての何よりの学びだと思っています。コロナ等対応が充分にとれていると思いますので、どんどん実習の機会をお願いします。
- ・「ひとりひとりを大切に思える人」、「ひとりひとりを十分に愛せる人」、「ひとりひとりの心に寄り添うことができる人」これら3点の基礎ができていて、人間性・専門性が深めていける人を望みます。

<理学療法学科>

- ・貴学によらず、全体的な新卒者の傾向として2~3年経つと転職を実行するスタッフが増えてきている印象があります。当院は卒後教育に力をいれておりますが、ようやく手を離して独り立ちでやらせてみようかという時期に転職します。先輩が「これからを期待して時間と手間ひまをかけて指導してきたこと」を全て無駄にします。病院としても一番手間ひまがかかる時期だけ在職して、すぐに転職することに対してはコストが無駄になると考えています。このようなことが続くようであれば新卒採用自体をなくす方向で検討しています。もちろん転職は個人の権利だと思いますがあまりにも希薄な責任感と行動には一定の教育が必要ではないかと思うところがあります。養成校の問題とは思いませんし、我々職場に全く問題がないとは言いませんが、社会人になる前に養成校の段階でできることはないか貴学を含めて一度検討してもらいたいと考えます。
- ・貴学様に限らずですが、もう少し卒後学習の重要性について在学中に伝えていただけるとありがたいです。
- ・卒後も大学の先生から臨床の場面で学びたい方もおられるようです。そのような機会についてもご検討いただければと存じます。
- ・国家資格取得後に必要となる登録や対応を確実に指導いただくこと

<作業療法学科>

- ・専門的な知識や国家試験に合格するための学力は大事かと思いますが、対象者やスタッフと関わる際のコミュニケーション能力を含めた人間力がより重要かと思われます。

<看護学科>

- ・群れの中では積極的に行動できるが、単独では能力を十分に発揮しきれていない学生、卒業生が多いように感じる。自主的に判断して行動する力を身につけてきてほしい。
- ・基礎的な看護技術は臨床に入ってから沢山学べます。学生の実習の中で患者の全体像の見方、情報収集の適切なとり方など繰り返し学んで頂けるとよいと思います。また、社会人になってからの基本的なこと、提出期限は守る、言葉遣いなど学生の間に身につけて頂けることを願います。

- 実践力を身につけてほしいです
- 看護職の倫理綱領について学生時代から理解を深めておくことが必要なのではないかと日常の様々な場面で感じます。今後、当院でも新人研修に取り入れていくことを要望したいと思っています。
- 職場環境の不適応が起きないように、組織的にサポートしておりますが、行き当たらないことがあると思います。先生方へ相談をしてきた場合は、どうぞ不満を聞いてあげてください。私どもも、個性を大事にのびのび成長できるよう、しっかりサポートしていきます。
- 現在の大学病院の臨床の状況を学生のうちから理解できるような関わりを望みます。看護のあらゆる場面で、患者にわかりやすい丁寧な説明を行い、納得してもらった上で、看護ケアを提供すること、特に高齢者を取り巻く全体像を捉えながら、観察と生活援助を行い、時に精神機能の低下を受容しつつ、人権を尊重しながら適切な看護を提供する。当たり前のことですが、それが今の時代、なかなかできていません。学生のうちからそれを感じていてくれるといいなと感じていますので、ぜひ、実習などで看護技術のみならず、伝えて行って欲しいです。